



♪♪ふれあいコラム

[BACK バックナンバー]

今、話題の人物をクローズアップ！

2013年6月号 復元楽器の口マンや文化を演奏と音色に込めて

てらかどりょう ヴァイオリン奏者・指揮者 寺神戸 亮さん

ヨーロッパを代表する古楽器アンサンブルのコンサートマスターを歴任し、バロック・ヴァイオリンの第一人者として著名な寺神戸亮さん。

6月30日の高輪区民センター『寺神戸亮ヴァイオリン&ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ リサイタル』では、珍しい復元楽器「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ」の演奏も予定されています。楽器やリサイタルについて伺いました。

—古楽器によるバロック音楽演奏に興味をもたれたきっかけは？

学生時代、バッハやモーツアルトなどの音楽は試験の課題曲という意識で、あまり面白味は見いだせなかったのです。しかし心のどこかで、もっと違った魅力があるはずだと思っていました。それが古楽器での演奏に出会い、衝撃を受けました。今まで知っていたバッハやモーツアルトとは全く違う、透き通った響きの中に躍動感があり、思いもよらなかつた激しいドラマがあったのです。

同時に、当時の楽器は現代の楽器といろいろな点で違っていたことを知りました。楽器の進歩や改良の代償に失ったものもあったことに気づかされ、昔の音楽は昔の楽器で演奏してこそ真価が発揮される、と思うに至ったのです。

—どんな違いがあるのですか？

例えばバロック・ヴァイオリンのガット弦と弓形のカーブを持ったバロック・ボウ（弓）から生み出される音は、現代のスチール弦のヴァイオリンとは一線を画する温かみのある音です。弦がよくたわむので音の膨らみ、ふくよかさ、発音の多様性などがより良く表現できます。各弦に個性があり、ポリフォニーを弾く時などとても良い効果を発揮します。

—「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ」は、どんな楽器ですか？

バッハが注文したと思われる小型チェロのような楽器が残っているのですが、長い間、演奏法など謎でした。それが最近の研究で、17世紀後半～18世紀前半、ギターのように肩から下げる弾く「スパッラ」というチェロがあったことが判明し、それを元に、現代に甦らせたのが「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ」です。

出会った時、革命的な楽器だと感じました。演奏方法はヴァイオリンに近く、メロディーばかり弾いている高音楽器ヴァイオリンにとって「低音の魅力」を実現させてくれる夢のような楽器だったのです。バッハの『無伴奏チェロ組曲』も、この楽器を念頭において書かれたのではないか、という説に興奮させられ、それは次第に確信に変わっていきました。

—6月30日のリサイタルでは、両方の楽器を演奏されますね。

一人の演奏家によるヴィオロンチェロ・ダ・スパッラとバロック・ヴァイオリンの演奏、というところが聴きどころかと思います。バッハがチェロとヴァイオリンの無伴奏作品に込めた想いや共通点、違いなど、同じ奏者だからこそ感じ取れるものもあるでしょう。ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラは小さいながらも豊かな音がします。それを間近で聴くためにも、ぜひ会場に足を運んでください。



ポリフォニーとは、複数の独立したパートが協和して進行する音楽で、メロディと別のメロディが絡み合う構成です。たとえば、同じメロディが遅れて追いかける『かえるのうた』などもポリフォニーのひとつです。

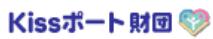


■プロフィール

1961年ボリビア生まれ。桐朋学園大学卒業後、東京フィルハーモニー交響楽団入団。退団後、オランダのデン・ハーグ王立音楽院に留学。ソリスト、古楽器演奏、バロック・オペラの指揮など幅広く活躍。現在、デン・ハーグ王立音楽院教授、桐朋学園大学音楽学部特任教授。ブリュッセル在住。

[▲このページのトップへ](#)

| [サイトマップ](#) | [みんなの声](#) | [Kissポート財団について](#) | [情報誌「Kissポート」について](#) | [品質・環境への取り組み](#) | [個人情報保護について](#) | [\[PDF\]](#) |



(公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーぶらざ

電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884 お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。当財団の許可なく複製、転載は出来ません。